

令和3年度 全国学力・学習状況調査の結果について（速報）

義務教育課

1 調査の概要

（1）調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

（2）調査の対象（全数調査）

- ① 小学校調査 小学校第6学年、義務教育学校前期課程第6学年、特別支援学校小学部第6学年
- ② 中学校調査 中学校第3学年、義務教育学校後期課程第3学年、中等教育学校前期課程第3学年、特別支援学校中学部第3学年

（3）調査事項

- ① 教科に関する調査〔国語、算数・数学〕

【出題内容】 ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等 ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容
【調査問題】 ・上記①と②を一体的に問う。 ・記述式の問題を一定割合で導入する。

- ② 質問紙調査

児童生徒に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査	学校における指導方法に関する取組や学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する質問紙調査

- （4）調査実施日 令和3年5月27日（木）

（5）調査を実施した本県の学校・児童生徒数

【小学校調査】

	学校数	児童数
国公立小学校	151校	8,184人

【中学校調査】

	学校数	生徒数
国公立中学校 特別支援学校（中学部）	68校	7,667人

(6) 調査結果の取扱いに関する配慮事項

調査結果については、調査の目的を達成するため、自らの教育及び教育施策の改善、各児童生徒の全般的な学習状況の改善等につなげることが重要であることに留意し、適切に取り扱うものとする。

調査結果の公表に関しては、教育委員会や学校が、保護者や地域住民に対して説明責任を果たすことが重要である。一方、調査により測定できるのは学力の特定の一部であること、学校における教育活動の一側面であることなどを踏まえるとともに、序列化や過度な競争が生じないようにするなど教育上の効果や影響等に十分配慮することが重要である。

「全国的な学力調査の今後の改善方策について」（平成29年3月29日）では、「平均正答率については、学力面において、細かい桁における微小な差異は、実質的な違いを示すものではないため、国としては、小数点以下を四捨五入した整数値で結果を提供することとする。」とされており、平成29年度から都道府県別の平均正答率については、国から整数値で提供されることとなっている。

2 今後の予定

(1) 調査結果の分析

本年度の調査結果について、主に次のような分析を実施し、各学校や市町（学校組合）教育委員会において、それぞれの教育及び教育施策の改善に資することができるよう、調査結果を分析し、報告書に取りまとめ送付する。

- ・ 教科に関する調査の設問ごとの分析
- ・ 学術的な知見を踏まえた学力調査及び質問紙調査結果の分析 等

(2) 分析結果の活用

調査結果の分析に基づき、児童生徒の学力向上に向けた授業改善等の取組を推進する。

- ・ 学力向上モデル校事業等を通して、学力の定着のための取組を推進
- ・ 「香川の教育づくり発表会」等の研修会を通じたモデル校の実践等の普及
- ・ 各種研修会等において分析結果に基づく授業改善を促進
- ・ 「令和3年度全国学力・学習状況調査の調査結果を踏まえた学習指導の改善・充実に向けた協議会」において、国語の授業改善への支援

(3) 「活用ツール」の配布

報告書に掲載した内容の設問や質問について、自校のデータを表やグラフに表示するツールを作成し、県教育委員会で分析した報告書の内容と学校データとを比較できるようにすることで、県内の小・中学校が共通して分析を行えるよう支援する。

(4) 各学校等における分析等への支援

調査結果を各学校の実態に応じて分析したり、授業改善の手立てを検討したりするために、各学校等の要請に応じて指導主事を派遣する。

3 教科に関する調査の結果概況

(1) 全体的な状況について

【小学校調査】

小学校では、国語で全国平均を下回り、算数で上回っている。

調査区分	国語		算数	
	R元	R3	R元	R3
県(公立) 平均正答率(%)	65	63	68	71
全国(公立) 平均正答率(%)	64 (63.8)	65 (64.7)	67 (66.6)	70 (70.2)
県と全国との差(pt)	+1	-2	+1	+1

※ R2年度は実施していないため、データなし。

※ H30年度まで、下記の通り「主として『知識』に関するA問題」と、「主として『活用』に関するB問題」とに区分されていたが、R元年度より、新学習指導要領の趣旨を踏まえ、知識と活用を一体的に問う調査問題が実施されるようになった。

※参考

調査区分	国語A			国語B		
	H28	H29	H30	H28	H29	H30
県(公立) 平均正答率(%)	75.0	75	69	59.5	59	58
全国(公立) 平均正答率(%)	72.9	75 (74.8)	71 (70.7)	57.8	58 (57.5)	55 (54.7)
県と全国との差(pt)	+2.1	0	-2	+1.7	+1	+3

調査区分	算数A			算数B		
	H28	H29	H30	H28	H29	H30
県(公立) 平均正答率(%)	78.2	79	64	46.7	48	53
全国(公立) 平均正答率(%)	77.6	79 (78.6)	64 (63.5)	47.2	46 (45.9)	52 (51.5)
県と全国との差(pt)	+0.6	0	0	-0.5	+2	+1

【中学校調査】

中学校では、国語、数学で全国平均を下回っている。

調査区分	国語		数学	
	R元	R3	R元	R3
調査年度				
県(公立) 平均正答率(%)	73	64	60	56
全国(公立) 平均正答率(%)	73 (72.8)	65 (64.6)	60 (59.8)	57 (57.2)
県と全国との差(pt)	0	-1	0	-1

※ R2年度は実施していないため、データなし。

※ H30年度まで、下記の通り「主として『知識』に関するA問題」と、「主として『活用』に関するB問題」とに区分されていたが、R元年度より、新学習指導要領の趣旨を踏まえ、知識と活用を一体的に問う調査問題が実施されるようになった。

※参考

調査区分	国語A			国語B		
	H28	H29	H30	H28	H29	H30
調査年度						
県(公立) 平均正答率(%)	77.2	78	76	67.5	71	60
全国(公立) 平均正答率(%)	75.6	77 (77.4)	76 (76.1)	66.5	72 (72.2)	61 (61.2)
県と全国との差(pt)	+1.6	+1	0	+1.0	-1	-1

調査区分	数学A			数学B		
	H28	H29	H30	H28	H29	H30
調査年度						
県(公立) 平均正答率(%)	63.8	66	67	44.6	49	46
全国(公立) 平均正答率(%)	62.2	65 (64.6)	66 (66.1)	44.1	48 (48.1)	47 (46.9)
県と全国との差(pt)	+1.6	+1	+1	+0.5	+1	-1

(6) 調査結果の取扱いに関する配慮事項

調査結果については、調査の目的を達成するため、自らの教育及び教育施策の改善、各児童生徒の全般的な学習状況の改善等につなげることが重要であることに留意し、適切に取り扱うものとする。

調査結果の公表に関しては、教育委員会や学校が、保護者や地域住民に対して説明責任を果たすことが重要である。一方、調査により測定できるのは学力の特定の一部であること、学校における教育活動の一側面であることなどを踏まえるとともに、序列化や過度な競争が生じないようにするなど教育上の効果や影響等に十分配慮することが重要である。

「全国的な学力調査の今後の改善方策について」（平成29年3月29日）では、「平均正答率については、学力面において、細かい桁における微小な差異は、実質的な違いを示すものではないため、国としては、小数点以下を四捨五入した整数値で結果を提供することとする。」とされており、平成29年度から都道府県別の平均正答率については、国から整数値で提供されることとなっている。

2 今後の予定

(1) 調査結果の分析

本年度の調査結果について、主に次のような分析を実施し、各学校や市町（学校組合）教育委員会において、それぞれの教育及び教育施策の改善に資することができるよう、調査結果を分析し、報告書に取りまとめ送付する。

- ・教科に関する調査の設問ごとの分析
- ・学術的な知見を踏まえた学力調査及び質問紙調査結果の分析 等

(2) 分析結果の活用

調査結果の分析に基づき、児童生徒の学力向上に向けた授業改善等の取組を推進する。

- ・学力向上モデル校事業等を通して、学力の定着のための取組を推進
- ・「香川の教育づくり発表会」等の研修会を通じたモデル校の実践等の普及
- ・各種研修会等において分析結果に基づく授業改善を促進
- ・「令和3年度全国学力・学習状況調査の調査結果を踏まえた学習指導の改善・充実に向けた協議会」において、国語の授業改善への支援

(3) 「活用ツール」の配布

報告書に掲載した内容の設問や質問について、自校のデータを表やグラフに表示するツールを作成し、県教育委員会で分析した報告書の内容と学校データとを比較できるようにすることで、県内の小・中学校が共通して分析を行えるよう支援する。

(4) 各学校等における分析等への支援

調査結果を各学校の実態に応じて分析したり、授業改善の手立てを検討したりするために、各学校等の要請に応じて指導主事を派遣する。

3 教科に関する調査の結果概況

(1) 全体的な状況について

【小学校調査】

小学校では、国語で全国平均を下回り、算数で上回っている。

調査区分	国語		算数	
	R元	R3	R元	R3
県(公立) 平均正答率(%)	65	63	68	71
全国(公立) 平均正答率(%)	64 (63.8)	65 (64.7)	67 (66.6)	70 (70.2)
県と全国との差(pt)	+1	-2	+1	+1

※ R2年度は実施していないため、データなし。

※ H30年度まで、下記の通り「主として『知識』に関するA問題」と、「主として『活用』に関するB問題」とに区分されていたが、R元年度より、新学習指導要領の趣旨を踏まえ、知識と活用を一体的に問う調査問題が実施されるようになった。

※参考

調査区分	国語A			国語B		
	H28	H29	H30	H28	H29	H30
県(公立) 平均正答率(%)	75.0	75	69	59.5	59	58
全国(公立) 平均正答率(%)	72.9	75 (74.8)	71 (70.7)	57.8	58 (57.5)	55 (54.7)
県と全国との差(pt)	+2.1	0	-2	+1.7	+1	+3

調査区分	算数A			算数B		
	H28	H29	H30	H28	H29	H30
県(公立) 平均正答率(%)	78.2	79	64	46.7	48	53
全国(公立) 平均正答率(%)	77.6	79 (78.6)	64 (63.5)	47.2	46 (45.9)	52 (51.5)
県と全国との差(pt)	+0.6	0	0	-0.5	+2	+1

【中学校調査】

中学校では、国語、数学で全国平均を下回っている。

調査区分	国語		数学	
	R元	R3	R元	R3
調査年度				
県(公立) 平均正答率(%)	73	64	60	56
全国(公立) 平均正答率(%)	73 (72.8)	65 (64.6)	60 (59.8)	57 (57.2)
県と全国との差(pt)	0	-1	0	-1

※ R2年度は実施していないため、データなし。

※ H30年度まで、下記の通り「主として『知識』に関するA問題」と、「主として『活用』に関するB問題」とに区分されていたが、R元年度より、新学習指導要領の趣旨を踏まえ、知識と活用を一体的に問う調査問題が実施されるようになった。

※参考

調査区分	国語A			国語B		
	H28	H29	H30	H28	H29	H30
調査年度						
県(公立) 平均正答率(%)	77.2	78	76	67.5	71	60
全国(公立) 平均正答率(%)	75.6	77 (77.4)	76 (76.1)	66.5	72 (72.2)	61 (61.2)
県と全国との差(pt)	+1.6	+1	0	+1.0	-1	-1

調査区分	数学A			数学B		
	H28	H29	H30	H28	H29	H30
調査年度						
県(公立) 平均正答率(%)	63.8	66	67	44.6	49	46
全国(公立) 平均正答率(%)	62.2	65 (64.6)	66 (66.1)	44.1	48 (48.1)	47 (46.9)
県と全国との差(pt)	+1.6	+1	+1	+0.5	+1	-1

(2) 学習指導要領の領域等の状況について〔全国（公立）との比較〕

① 小学校

【国語】

- 全国（公立）の平均正答率と比較すると、全ての領域等で下回っている。
 - ・「書くこと」において、具体的には、自分の主張が明確に伝わるように、文章全体の構成や展開を考える問題などで下回っている。〔問題3一〕
 - ・「読むこと」において、具体的には、目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約する問題などで下回っている。〔問題2四〕

【算数】

- 全国（公立）の平均正答率と比較すると、「数と計算」「図形」「測定」「変化と関係」で上回り、「データの活用」で下回っている。
 - ・「数と計算」において、具体的には、二つの道のりの差を求めるために必要な数値を選び、その求め方と答えを記述する問題などで上回っている。〔問題1(1)〕
 - ・「データの活用」において、具体的には、データを二次元の表に分類整理する問題で下回っている。〔問題3(3)〕

調査区分	国語			
	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	言葉の特徴や使い方に関する事項
県（公立） 平均正答率(%)	77.0	56.9	44.5	67.9
全国(公立) 平均正答率(%)	77.8	60.7	47.2	68.3
県と全国との差(pt)	-0.8	-3.8	-2.7	-0.4

調査区分	算数				
	数と計算	図形	測定	変化と関係	データの活用
県（公立） 平均正答率(%)	65.8	58.0	76.5	76.9	75.6
全国(公立) 平均正答率(%)	63.1	57.9	74.8	75.9	76.0
県と全国との差(pt)	+2.7	+0.1	+1.7	+1.0	-0.4

② 中学校

【国語】

- 全国（公立）の平均正答率と比較すると、全ての領域等で下回っている。
 - ・「話すこと・聞くこと」において、具体的には、話合いの話題や方向を捉える問題などで下回っている。〔問題1一〕
 - ・「書くこと」において、具体的には、意見文の下書きの構成の工夫について、自分の考えを書く問題などで下回っている。〔問題2二〕

【数学】

- 全国（公立）の平均正答率と比較すると、「資料の活用」で上回り、「数と式」「図形」「関数」で下回っている。
 - ・「図形」において、具体的には、扇形の中心角と弧の長さや面積との関係について理解しているかを問う問題などで下回っている。〔問題3〕
 - ・「資料の活用」においては、具体的には、データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明する問題などで上回っている。〔問題8(3)〕

調査区分	国語			
	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化と国語の機能に関する領域
県（公立） 平均正答率(%)	79.0	56.2	48.3	74.6
全国(公立) 平均正答率(%)	79.8	57.1	48.5	75.1
県と全国との差(pt)	-0.8	-0.9	-0.2	-0.5

調査区分	数学			
	数と式	図形	関数	資料の活用
県（公立） 平均正答率(%)	64.0	49.8	54.9	54.3
全国(公立) 平均正答率(%)	64.9	51.4	56.4	53.8
県と全国との差(pt)	-0.9	-1.6	-1.5	+0.5

(3) 無解答率について

小学校では、無解答率が全国平均を上回る問題は、国語で 50%を超えている。

中学校では、無解答率が全国平均を上回る問題は、国語で 90%、数学で 80%を超えている。

無解答率が全国平均を上回った問題数と割合

小学校	調査問題数 (問)	無解答率が全国平均を上回った問題数 (問)	割合 (%)
国語	14	8	57.1
算数	16	2	12.5

中学校	調査問題数 (問)	無解答率が全国平均を上回った問題数 (問)	割合 (%)
国語	14	13	92.9
数学	16	14	87.5

※参考(R元年度)

小学校	調査問題数 (問)	無解答率が全国平均を上回った問題数 (問)	割合 (%)
国語	14	1	7.1
算数	14	0	0.0

中学校	調査問題数 (問)	無解答率が全国平均を上回った問題数 (問)	割合 (%)
国語	10	7	70.0
数学	16	9	56.3

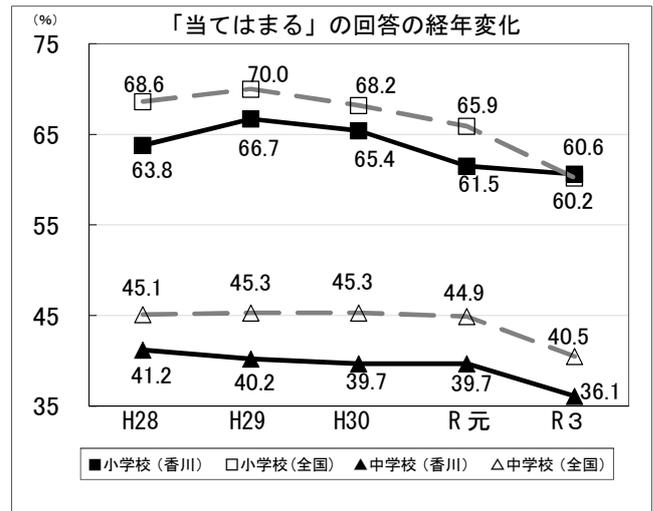
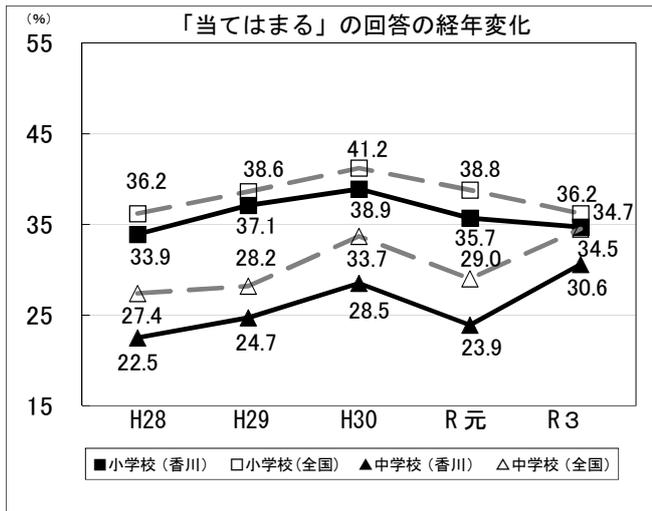
4 児童生徒質問紙調査の結果概況

(1) 自尊意識等について

「自分には、よいところがあると思いますか」の質問に、「当てはまる」と回答した児童生徒の割合は、小・中ともに全国平均を下回っており、令和元年度と比較して、小学校は減少し、中学校は増加している。「将来の夢や目標を持っていますか」の質問に、「当てはまる」と回答した児童生徒の割合は、令和元年度より減少したものの、小学校で全国平均を上回っている。

□6 自分には、よいところがあると思いますか

□7 将来の夢や目標を持っていますか

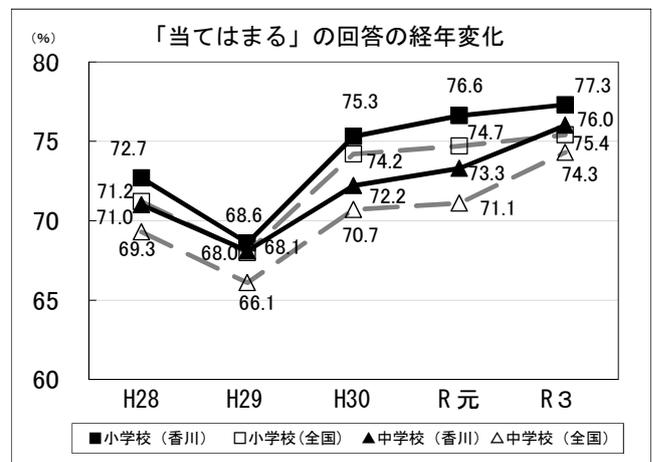
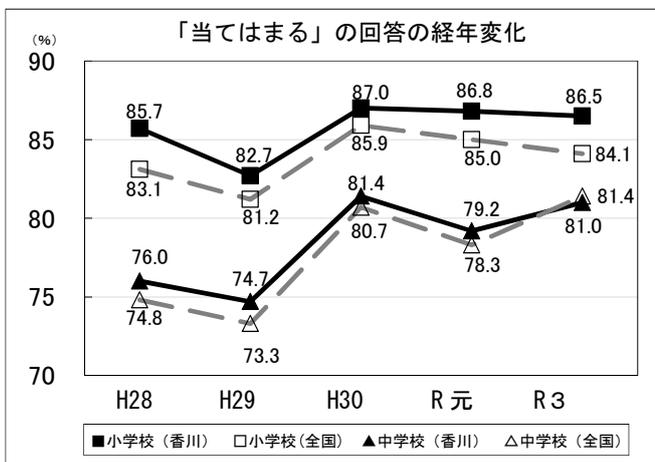


(2) 規範意識について

「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」の質問に、「当てはまる」と回答した児童生徒の割合は、小学校は全国平均を上回り、中学校でやや下回っている。「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の質問に、「当てはまる」と回答した児童生徒の割合は、小・中ともに全国平均を上回っており、令和元年度と比較して増加している。

□11 いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか

□12 人の役に立つ人間になりたいと思いますか

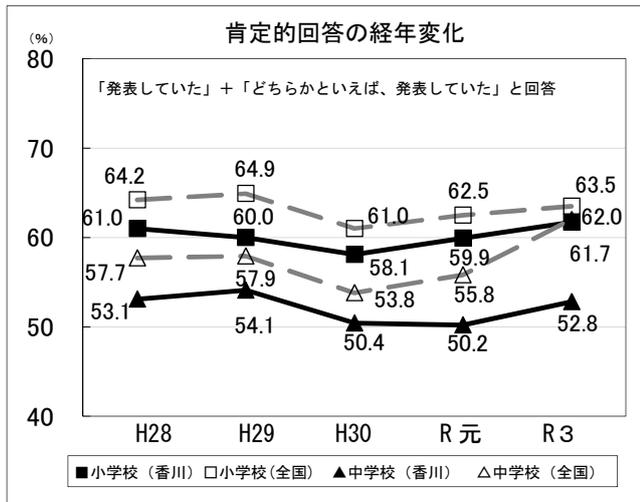


※ □番号は、児童生徒質問紙調査番号を示す。

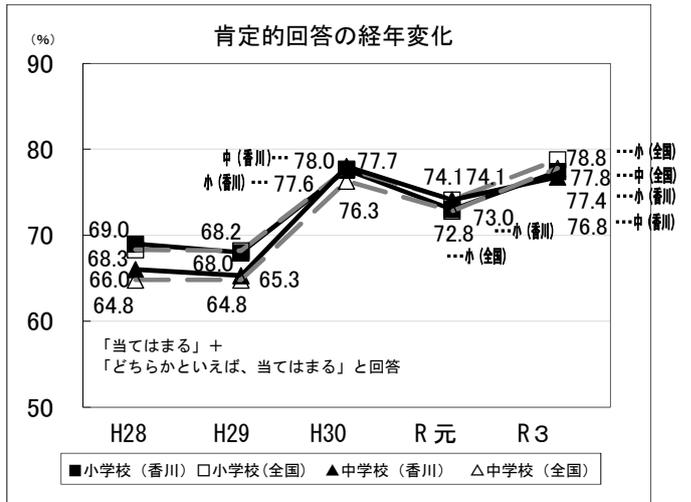
(3) 言語活動について

「授業で、自分の考えを公表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか」「学級の友達(生徒)との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の質問に肯定的に回答した児童生徒の割合は、令和元年度より小・中学校ともに増加しているが、全国平均を下回っている。

□32 授業で、自分の考えを公表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか



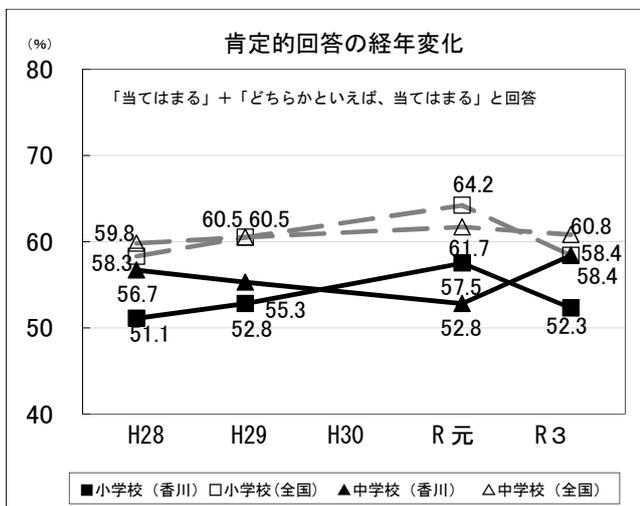
□37 学級の友達(生徒)との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか



(4) 学習に対する関心・意欲について

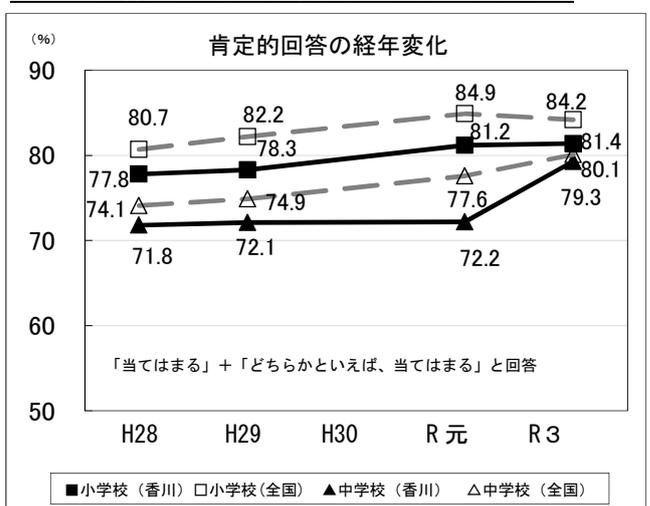
「国語、算数(数学)の勉強は好きですか」の質問に、肯定的に回答している児童生徒の割合は、小学校算数で全国平均を上回っているが、小・中学校の国語と中学校数学では下回っている。「国語、算数(数学)の授業の内容はよく分かりますか」の質問に、肯定的に回答している児童生徒の割合は、小・中学校ともに全国平均を下回っている。

□43 国語の勉強は好きですか



※H30は該当の質問無し

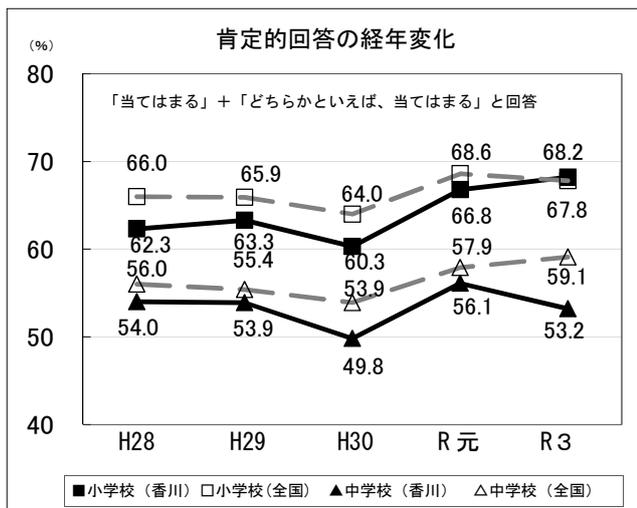
□45 国語の授業の内容はよく分かりますか



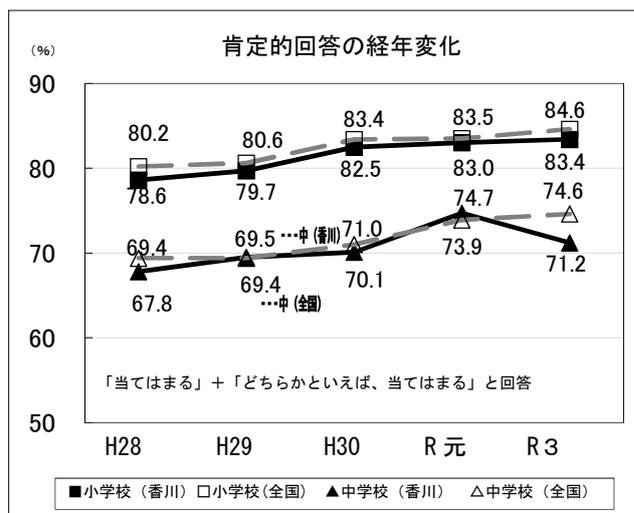
※H30は該当の質問無し

※ □番号は、児童生徒質問紙調査番号を示す。

□52 算数（数学）の勉強は好きですか



□54 算数（数学）の授業の内容はよく分かりますか

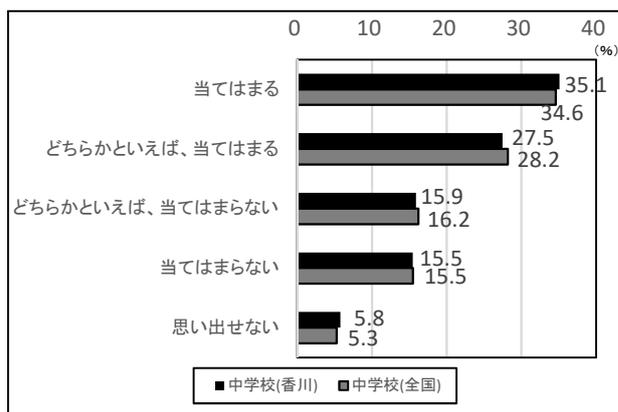
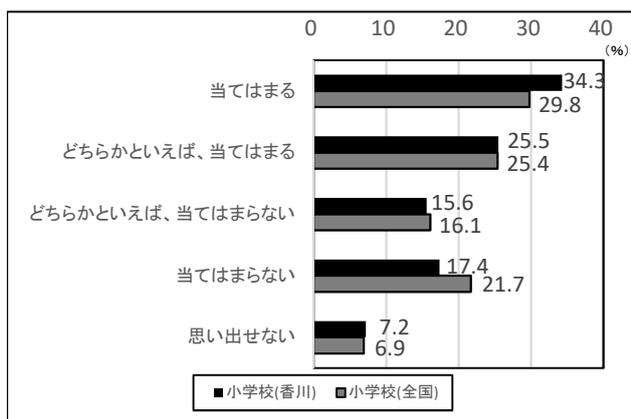


(5) 新型コロナウイルス感染症の影響に関する項目について

「勉強について不安を感じた」という項目に、「当てはまる」と回答した児童生徒の割合は、小・中学校ともに、全国を上回っている。「計画的に学習を続けることができた」「規則正しい生活を送っていた」という項目に、「当てはまる」と回答した児童生徒の割合は、小・中学校ともに、全国を下回っている。

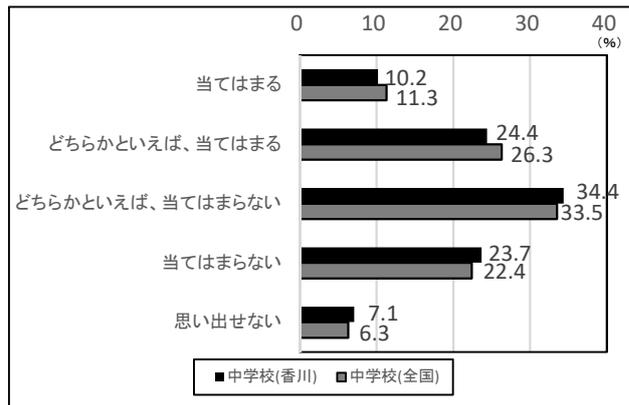
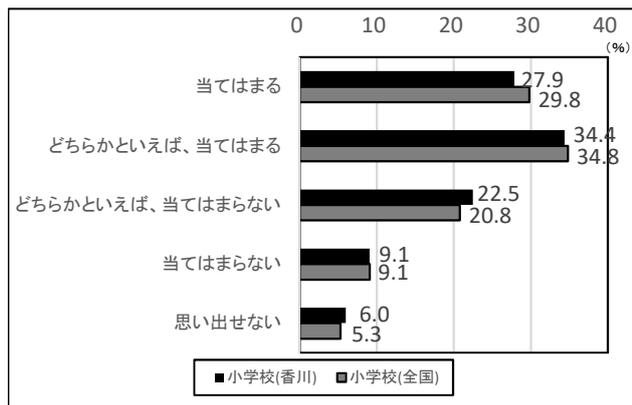
去年(令和2年)の4月～5月ごろ(新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が臨時休校していた時期)のことについて、あなたはどれくらい当てはまりましたか。

□64 勉強について不安を感じた

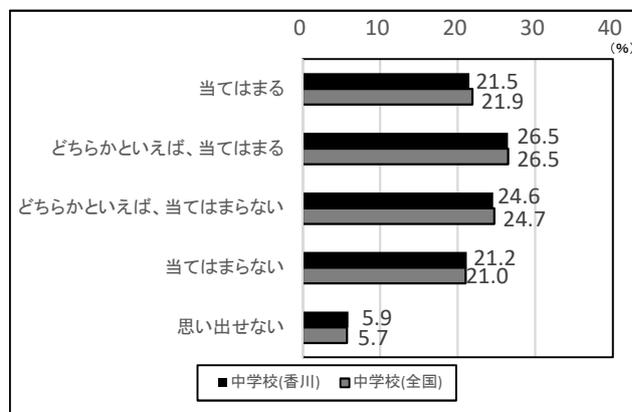
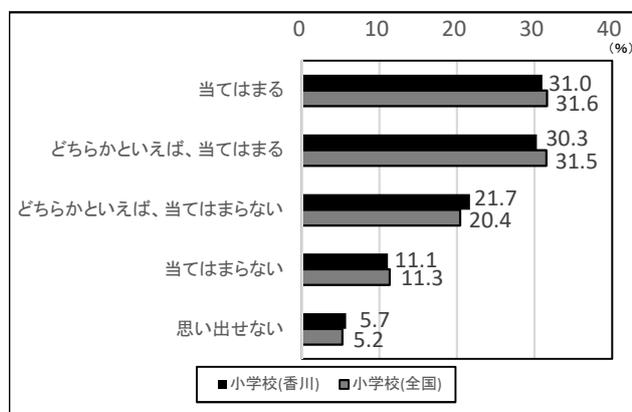


※ □番号は、児童生徒質問紙調査番号を示す。

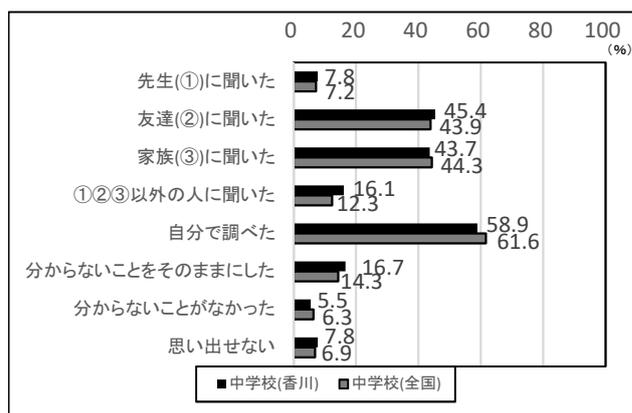
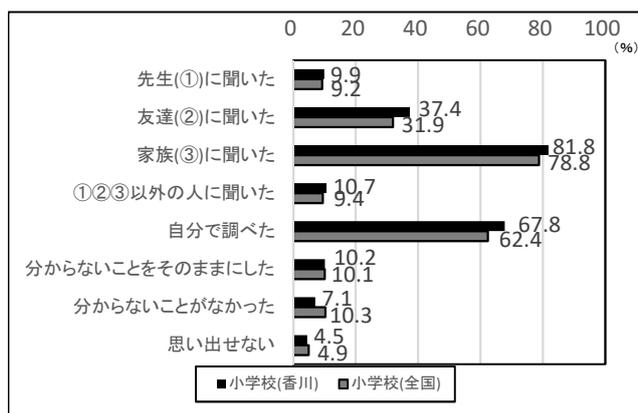
□65 計画的に学習を続けることができた



□66 規則正しい生活を送っていた



□67 学校からの課題で分からないことがあったとき、どのようにしていましたか(当てはまるもの・複数選択)



※ □番号は、児童生徒質問紙調査番号を示す。